

令和3年度

修士課程

鍼灸学専攻（通信教育課程）

授 業 計 画

（シラバス）

明治国際医療大学大学院

令和3年度 大学院 修士課程 鍼灸学専攻（通信教育課程） 教育課程

科目区分	細目	授業科目	配当年次	単位数	分野				時間数	備考
					伝統鍼灸学	鍼灸基礎医学	鍼灸臨床医学	健康予防鍼灸学		
					必修	必修	必修	必修		
基盤科目	スタートアップ	研究法入門	1	1	1	1	1	1	15	
		臨床鍼灸学入門	1	1	1	1	1	1	15	
	ベーシック	基礎鍼灸医学	1	4	4	4	4	4	60	
		臨床鍼灸医学	1	4	4	4	4	4	60	
		医学研究法	1	1	1	1	1	1	15	
	アドバンス	統合医療学	1	1	1	1	1	1	15	
		学際鍼灸医学	1	1	1	1	1	1	15	
		教育学概論	1	1	1	1	1	1	15	
		予防医学	1	1	1	1	1	1	15	
		鍼灸医学特論	1	1	1	1	1	1	15	
専門科目	実験計画法	伝統鍼灸学研究法	1	2	2				30	2単位以上必修
		鍼灸基礎医学研究法	1	2		2			30	
		鍼灸臨床医学研究法	1	2			2		30	
		健康予防医学研究法	1	2				2	30	
	実験調査法	伝統鍼灸学演習	1・2	4	4 (2)				120	4単位以上必修
		鍼灸基礎医学演習	1・2	4		4 (2)			120	
		鍼灸臨床医学演習	1・2	4			4 (2)		120	
		健康予防医学演習	1・2	4				4 (2)	120	
	特別研究	特別研究Ⅰ	1・2	1	1 (0.5)	1 (0.5)	1 (0.5)	1 (0.5)	30	
		特別研究Ⅱ	1・2	5	5 (2.5)	5 (2.5)	5 (2.5)	5 (2.5)	150	
		特別研究Ⅲ	1・2	2	2 (1)	2 (1)	2 (1)	2 (1)	60	

単位数欄の（）は面接授業による単位数で内数

修了に必要な単位数は、基盤科目の全科目16単位と専門科目の特別研究8単位ならびに研究法2単位以上、演習4単位以上を選択必修し、合計30単位以上とする。

目 次

基盤科目

1. 研究法入門	1
2. 臨床鍼灸学入門	3
3. 基礎鍼灸医学	5
4. 臨床鍼灸医学	12
5. 医学研究法	19
6. 統合医療学	21
7. 学際鍼灸医学	23
8. 教育学概論	26
9. 予防医学	28
10. 鍼灸医学特論	30

専門科目

1. 伝統鍼灸学研究法	32
2. 鍼灸基礎医学研究法	33
3. 鍼灸臨床医学研究法	34
4. 健康予防医学研究法	35
5. 伝統鍼灸学演習	36
6. 鍼灸基礎医学演習	37
7. 鍼灸臨床医学演習	38
8. 健康予防医学演習	39
9. 特別研究Ⅰ	40
10. 特別研究Ⅱ	41
11. 特別研究Ⅲ	42

■ 基盤科目

授 業 科 目 名	研究法入門					
単 位 数 等	単位数	1 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年前期
授 業 担 当 者 (◎は単位認定者)	◎ 角谷英治、糸井マナミ、山崎 翼					
テ ー マ	研究を開始する上で必須となる知識の学習					
授 業 の 概 要	<p>研究活動を行う上で、最低限必要となる知識について学習する。具体的には、①論文検索、②研究の専門用語、③研究デザイン、④臨床研究の倫理、⑤倫理的配慮、⑥動物実験の倫理、⑦調査研究、⑧症例報告について学修し、研究活動を行う上で必要となる基礎知識について理解する。</p> <p><動物実験の倫理>動物実験を行うために必要な関連法規・基本指針および本学における動物実験規程を学ぶ。</p>					
視 点 (ねらい)	<p>1. 研究活動に必要な倫理的内容について理解すること</p> <p>2. 研究に関する用語の理解や文献検索の方法を理解すること</p> <p>3. 研究デザインや統計解析について基礎的な内容を理解すること</p> <p><動物実験の倫理>関連法規・基本指針等の目的を理解したうえで動物実験の意義、動物福祉について考え、動物実験を行う上で必要な倫理観を養う。</p>					
授 業 計 画						
日程	概 要			備考 (授業時間外学習の指示等)		
1	[授業概要] 論文検索と文献複写 (山崎 1) [到達目標] 論文検索ならびに文献複写の方法について理解する。					
2	[授業概要] 基本的な研究・統計学用語 (山崎 2) [到達目標] 研究に関する基本的な用語や統計学用語について理解する。					
3	[授業概要] 研究デザインの基本 (山崎 3) [到達目標] 研究デザインの種類やその違いについて、基本的内容を理解する。					
4	[授業概要] 臨床研究の倫理 (山崎 4) [到達目標] 臨床研究に必要な倫理について理解する。					
5	[授業概要] 研究実施に際しての倫理的配慮 (山崎 5) [到達目標] 研究を実施する際の倫理的配慮について、実際の場面を想定しながら理解する。					

6	<p>[授業概要] 動物実験の倫理：動物実験関連法規と動物実験の実施に関する基本指針、明治国際医療大学動物実験規程について解説する。</p> <p>[到達目標] 動物実験関連法規について理解し法を順守した正しい動物実験が行える。3Rの原則、動物の福祉、日本における動物実験の自主管理体制について理解する。</p>	<p>受講前に関連法規：動物の愛護及び管理に関する法律について、一読しておく。</p> <p>動物実験の意義、動物福祉について考え、動物実験を行う上で必要な倫理についてまとめる。</p>
7	<p>[授業概要] アンケート調査（山崎6）</p> <p>[到達目標] 調査研究の基本的内容について、アンケート調査を中心にして理解する。</p>	
8	<p>[授業概要] 症例報告の方法（山崎7）</p> <p>[到達目標] 症例報告の意義や実際の内容について理解する。</p>	
リポート課題	架空の研究テーマ（興味のあるテーマ）を想定し、PICO（PECO）に基づいた研究プロトコルをまとめる。	
テキスト（配付資料）	配布資料	
参考文献	1. 医学的研究のデザイン第4版－研究の質を高める疫学的アプローチ－, メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2014.	
評価方法	小テストの受験及びレポート課題の合格を総合して評価する。	
その他（アドバイス等）	特になし	

授 業 科 目 名	臨床鍼灸学入門					
単 位 数 等	単位数	1 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年前期
授 業 担 当 者	◎ 廣 正基、和辻直、山崎 翼、吉田行宏、福田晋平					
テ ー マ	鍼灸臨床において、治療する頻度の高い疾患、症状について、診察から鍼灸治療の基本的な方法までを理解する。また、患者心理についても学習・理解する。					
授 業 の 概 要	鍼灸臨床において遭遇する確率の高い①頭痛、②耳鳴・難聴、③痺れ・冷え、④頸肩腕痛・肩こり、⑤上肢痛・五十肩、⑥腰下肢痛、⑦その他不定愁訴などについて学び、ジェネラリストとして鍼灸臨床を行う上で必要な知識を理解する。					
視 点 (ねらい)	1. 鍼灸臨床において治療する頻度の高い疾患、症状について理解する。 2. ジェネラリストとして鍼灸臨床を行う上で必要な知識を理解する。 3. 患者心理を理解し、患者教育の方法までを理解する。					
授 業 計 画						
日程	概 要			備考 (授業時間外学習の指示等)		
1	[授業概要] 総合診療・理学検査について (山崎 1) [到達目標] ジェネラリストとして鍼灸臨床を行う上で必要な、基本的知識を理解する。					
2	[授業概要] 頭痛 (福田 1) [到達目標] 頭痛に対する鍼灸臨床の診察と治療について、基本的内容を理解する。					
3	[授業概要] 耳鳴・難聴 (福田 2) [到達目標] 耳鳴・難聴に対する鍼灸臨床の診察と治療について、基本的内容を理解する。					
4	[授業概要] 手足のしびれ・冷え (福田 3) [到達目標] 痺れ・冷えに対する鍼灸臨床の診察と治療について、基本的内容を理解する。					
5	[授業概要] 頸部痛 (吉田 1) [到達目標] 頸肩腕痛・肩こりに対する鍼灸臨床の診察と治療について、基本的内容を理解する。					
6	[授業概要] 肩関節痛 (吉田 2) [到達目標] 上肢痛・五十肩に対する鍼灸臨床の診察と治療について、基本的内容を理解する。					
7	[授業概要] 腰下肢痛 (吉田 3) [到達目標] 腰下肢痛に対する鍼灸臨床の診察と治療について、基本的内容を理解する。					

8	[授業概要] 東洋医学の基礎について(和辻1) [到達目標] 東洋医学的診察の基礎について理解する。	
リポート課題	① 講義の中で示したバイタルサインの測定順番と、バイタルサインの異常の意味について記載する。 ② 鍼灸院でバイタルサインをとる意義について考えを述べる。	
テキスト(配付資料)	配布資料	
参考文献	1. 伊藤和憲, いちばんやさしい 痛みの治療がわかる本, 医道の日本, 2017.	
評価方法	小テストの受験及びレポート課題の合格を総合して評価する。	
その他(アドバイス等)	特になし	

授 業 科 目 名	基礎鍼灸医学					
単 位 数 等	単位数	4 単位	授業形態	印刷教材	授業年次	1 年
授 業 担 当 者 (◎は科目責任者) (○は領域責任者)	◎和辻 直 ○榎原智美 ○林 知也、川喜田健司 ○糸井マナミ ○和辻 直、廣 正基、木村啓作、角谷英治					
テ ー マ	自立した研究者を育成するため、鍼灸医学と関連が深いと考えられる基礎医学的分野および鍼灸医学の伝統的基礎理論分野の各領域における最新の知見について学習し、基礎鍼灸医学の研究におけるベースとなる知見を理解する。					
授 業 の 概 要	<p>鍼灸医学に関連する形態学(特に鍼灸臨床と関係の深い体表解剖及び皮膚の形態)、機能学(特に鍼灸刺激で生じるさまざまな生体现象を理解する基礎となる生体の調節機構)、免疫学(特に免疫系・生体防御系)について教授する。また、鍼灸医学の根底を成す古医書及び鍼灸医学の基礎理論となる経絡経穴学・診察法(四診法)等についてより専門的に教授する。</p> <p>【形態学領域】 (榎原智美/4回) 体表解剖について教授する。体表解剖と神経、血管あるいは臓器の位置関係について教授する。 (榎原智美/4回) 皮膚の形態について教授する。鍼灸刺激の対象である皮膚、鍼灸治療の触診のための感覚受容部としての皮膚、の形態学的基盤について教授する。</p> <p>【機能学領域】 (川喜田健司/4回) 体表刺激の視点から、生体機能調節系について教授する。動物機能において特に体性神経系機能などを教授する。 (林 知也/4回) 体表刺激の視点から、生体機能調節系について教授する。植物機能において、特に循環・消化・代謝などについて教授する。</p> <p>【免疫学領域】 (糸井マナミ/8回) 体表刺激の視点から、免疫、生体防御系の成り立ち機能、免疫応答の関わる疾患および神経・内分泌系による制御について教授する。</p> <p>【基礎鍼灸学領域】 (廣 正基/3回) 鍼灸臨床において、これまで生体観察から経穴の存在を明らかにするために、良導点や撮診点などの手法により努力されてきた。それぞれの経穴の捉え方について理解するとともに、特殊鍼法との関連性について教授する。 (木村啓作/1回) 鍼灸臨床における安全性について理解すること (角谷英治/2回) 鍼灸医学の基礎理論について、西洋医学と東洋医学の観点から教授する。主として西洋医学の観点で捉えた経路、ツボについて教授する。</p>					

	(和辻 直/2回) 鍼灸医学の基礎理論について、西洋医学と東洋医学の観点から教授する。主として東洋医学の診察法、特に舌診について教授する。		
視点 (ねらい)	<p>【形態学領域】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 鍼灸臨床における体表解剖学の重要性について理解すること 2. 皮膚の形態学的基礎と皮膚感覚受容器について理解すること <p>【機能学領域】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 体表刺激と体性神経機能との関係について理解すること 2. 体表刺激と消化・代謝機能との関係について理解すること 3. 体表刺激と循環・生体調節機能との関係について考えること <p>【免疫学領域】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 免疫系の成り立ちを器官・細胞・分子レベルで理解すること 2. 免疫応答及びその調節を器官・細胞・分子レベルで理解すること 3. 体表刺激と免疫応答との関係について考えること <p>【基礎鍼灸学領域】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 東洋医学の基本的な整体観、原因、臓腑や経脈について理解すること 2. 経脈理論について理解すること 3. 形態医学的・機能学的にみた経絡、ツボについて理解すること 4. 舌診の診断的有効性について理解すること 5. 鍼灸臨床における安全性を理解すること 		
授 業 計 画			
回	概 要	備考 (授業時間外学習の指示等)	テキスト頁
1	[授業概要(榎原1)] 頭頸部の体表解剖	「解剖学アトラス」越智淳三(文光堂)を読み解剖学の理解を深める	
	[到達目標(榎原1)] 頭頸部の体表解剖が説明できる		
2	[授業概要(榎原2)] 胸部の体表解剖	「局所解剖カラーアトラス」北村清一郎(南江堂)を読み理解を深める	
	[到達目標(榎原2)] 胸部の体表解剖が説明できる		
3	[授業概要(榎原3)] 腹・背部の体表解剖	「体表解剖カラーアトラス」佐藤達夫監訳(南江堂)を読む	
	[到達目標(榎原3)] 腹・背部の体表解剖が説明できる		
4	[授業概要(榎原4)] 殿部・股関節部の体表解剖	「生体の観察」星野一正著(医歯薬出版)を読み理解を深める	
	[到達目標(榎原4)] 殿部・股関節部の体表解剖が説明できる		
5	[授業概要(榎原5)] 組織学的基礎を概説する	参考文献(図書)の「入門組織学」と「標準組織学 総論」を予習・復習し、組織学全般を把握する。	
	[到達目標(榎原5)] 人体を構成する4組織を区別して定義し、器官の組織構成を簡単に解説できる。		

6	[授業概要(榎原6)] 皮膚とは何か。形態学的観点。	上記参考書に「標準組織学各論」を加えて予習・復習し、皮膚組織とはなにか、を、形態学的に理解する。	
	[到達目標(榎原6)] 皮膚、粘膜、漿膜の形態学的定義と機能、および皮膚の層構造(表皮・真皮・皮下組織)を組織の特徴とともに解説できる。		
7	[授業概要(榎原7)] 皮膚の感覚受容器の形態学的基礎	上記参考書に「Gray's Anatomy」を加えて予習・復習し、神経組織学的基礎と皮膚感覚受容器を把握する。	
	[到達目標(榎原7)] 皮膚に分布する感覚受容器の形態学的定義と、多様性を解説できる。		
8	[授業概要(榎原8)] 皮膚の機械受容器の最近の知見	上記参考書を予習復習し、機械受容器の形態学的特徴を把握する。	
	[到達目標(榎原8)] 複数の機械受容器の形態学的特徴を概説できる。		
9	[授業概要(川喜田1)] 体表刺激で興奮する体性感覚受容器	関連論文および資料の読解	
	[到達目標(川喜田1)] 各種受容器の特徴を理解させる。		
10	[授業概要(川喜田2)] ポリモーダル受容器の構造と機能	関連論文および資料の読解	
	[到達目標(川喜田2)] ポリモーダル受容器の持つ役割について理解させる。		
11	[授業概要(川喜田3)] 体性感覚刺激でおこる筋緊張緩和作用	関連論文および資料の読解	
	[到達目標(川喜田3)] 筋緊張の調節機構を理解させる。		
12	[授業概要(川喜田4)] 体性感覚刺激でおこる鎮痛作用	関連論文および資料の読解	
	[到達目標(川喜田4)] 内因性鎮痛機構を理解させる。		
13	[授業概要(林1)] 消化・吸収機能と体表刺激について	関連資料および論文の読解	
	[到達目標(林1)] 消化・吸収機能を理解した上で、体表刺激によるその機能の変化を考える。		
14	[授業概要(林2)] 代謝機能と体表刺激について	関連資料および論文の読解	p. ～
	[到達目標(林2)] 代謝機能の内、特にエネルギー代謝機能を理解した上で、体表刺激によるその機能の変化を考える。		

15	[授業概要(林3)] 循環機能と体表刺激について	関連資料および論文の読解	p. ～
	[到達目標(林 3)] 循環機能を理解した上で、体表刺激によるその機能の変化を考える。		
16	[授業概要(林4)] ストレスに対する生体調節機能と体表刺激について	関連資料および論文の読解	p. ～
	[到達目標(林 4)] ストレスに対する生体調節機能の内、特に内分泌機能を理解した上で、体表刺激によるその機能の変化を考える。		
17	[授業概要(糸井マ1)] 生体防御系の成り立ち：血液系細胞およびリンパ系細胞の特徴と機能およびその分化、リンパ系組織・器官の構造と機能	テキスト(シンプル免疫学)による予習とテキスト及び教材を見直し復習する	p. ～
	[到達目標(糸井マ 1)] 生体防御系の全体像を把握し、免疫系細胞および器官の機能を理解する		
18	[授業概要(糸井マ2)] 自然免疫：補体・食食細胞・NK細胞	テキスト(シンプル免疫学)による予習とテキスト及び教材を見直し復習する	p. ～
	[到達目標(糸井マ 2)] 自然免疫による異物処理機構とサイトカイン産生について理解する。さらに、これらと鍼灸の係わりについて理解する。		
19	[授業概要(糸井マ3)] 獲得性免疫：T細胞とB細胞の分化、抗体と活性化T細胞(エフェクターT細胞)の特徴と機能	テキスト(シンプル免疫学)による予習とテキスト及び教材を見直し復習する	p. ～
	[到達目標(糸井マ 3)] T細胞およびB細胞の分子背景、抗原認識受容体の多様性形成、自己寛容について理解する。抗体のクラス特異的特徴と機能、ヘルパーT細胞(Th1, Th2, Th17)と細胞障害性T細胞の特徴と機能を理解する。		
20	[授業概要(糸井マ4)] 免疫応答調節と細胞移動ー急性炎症	テキスト(シンプル免疫学)による予習とテキスト及び教材を見直し復習する	p. ～
	[到達目標(糸井マ 4)] サイトカイン、ケモカインおよび細胞接着による免疫応答調節のメカニズムを理解する。さらに、これらと鍼灸の係わりについて理解する。		

21	[授業概要(糸井マ5)] 感染免疫	テキスト(シンプル免疫学)による予習とテキスト及び教材を見直し復習する	p. ~
	[到達目標(糸井マ 5)] 細胞外細菌・細胞内で増殖する細菌・ウイルス等の病原体に特徴的な自然免疫および獲得免疫応答の過程を理解する。さらに、これらと鍼灸の係わりについて理解する。		
22	[授業概要(糸井マ6)] 外来抗原に対するアレルギー	テキスト(シンプル免疫学)による予習とテキスト及び教材を見直し復習する	p. ~
	[到達目標(糸井マ 6)] I~IV型アレルギーの原因と発症のメカニズムについて理解する。さらに、これらと鍼灸の係わりについて理解する。		
23	[授業概要(糸井マ7)] 自己免疫疾患	テキスト(シンプル免疫学)による予習とテキスト及び教材を見直し復習する	p. 99 ~111
	[到達目標(糸井マ 7)] 自己抗原に対するII~IV型アレルギーとしての自己免疫疾患の原因と発症のメカニズムについて理解する。さらに、これらと鍼灸の係わりについて理解する。		
24	[授業概要(糸井マ8)] 神経内分泌免疫	テキスト(シンプル免疫学)による予習とテキスト及び教材を見直し復習する	p. ~
	[到達目標(糸井マ 8)] 免疫系の中核および末梢神経系による調節、および内分泌による調節について理解する。さらに、これらと鍼灸の係わりについて理解する。		
25	[授業概要(廣1)] 良導絡について	参考文献による講義内容のまとめと配布資料による復習	
	[到達目標(廣 1)] 良導絡の考え方について説明することができる。		
26	[授業概要(廣2)] 良導絡治療の治療方法について	参考文献による講義内容のまとめと配布資料による復習	
	[到達目標(廣 2)] ノイロメーターを用いた測定および治療方法が説明できる		
27	[授業概要(廣3)] 鍼灸臨床における特殊鍼法の小児鍼について	参考文献による講義内容のまとめと配布資料による復習	
	[到達目標(廣 3)] 特殊鍼法の小児鍼についてその方法について理解することができる。		
28	[授業概要(木村1)] 鍼灸臨床における副作用・医療過誤・事故の現状について	鍼灸医療ガイドラインの感染防止対策について簡潔にまとめる。	
	[到達目標(木村 1)] 鍼灸臨床における副作用・医療過誤・事故の現状について理解する。		

29	[授業概要(角谷1)] 形態学的、機能学的にみた経絡について	生体刺激の伝導路とその特徴について見直して学習しておく。	
	[到達目標(角谷 1)] 経絡を基礎医学的に捉えて理解することができる。		
30	[授業概要(角谷2)] 形態学的、機能学的にみたツボについて	生体刺激の伝導路とその特徴について見直して学習しておく。	
	[到達目標(角谷 2)] 診察点であり治療点であるツボを基礎医学的に捉えて理解することができる。		
31	[授業概要(和辻1)] 東洋医学の診察法、舌診の特徴・基本的診察法について学習する。	「新しい鍼灸診療」を読み理解を深める。	p. 26 ～29
	[到達目標(和辻 1)] 東洋医学の診察法の概要、舌診の特徴や基本的診察法、正常な舌所見などが説明できる。		
32	[授業概要(和辻2)] 舌診の基本的診察法・臨床応用について学習する。	「新しい鍼灸診療」を読み理解を深める。	p. 29 ～39
	[到達目標(和辻 2)] 舌診の基本的診察項目が説明できる。また舌診所見と病証との関係や予後判断が理解できる。		
リポート課題	<p>《課題1》形態学領域 『体表解剖と皮膚組織と鍼灸臨床との関連について』</p> <p>《課題2》機能学領域 『体表刺激と生体の調節機能について』 講義テーマの中から、一つを選択し、そのテーマについて講義内容を参考にして、各自の視点でまとめる。 『体表に分布する感覚受容器について』 『痛覚について』 『生体内の鎮痛機序について』 『体表刺激の筋緊張調節作用』 『消化吸収機能と体表刺激について（前半：胃運動に対する体表刺激）』 『消化吸収機能と体表刺激について（後半：小腸運度に対する体表刺激および胃酸分泌に対する体表（鍼）刺激）』 『循環機能と体表刺激について』 『エネルギー代謝と酸化ストレスに対する体表刺激について』</p> <p>《課題3》免疫学領域 『鍼灸刺激が生体防御系調節に関与し得る作用とそのメカニズムについて』</p> <p>《課題4》基礎鍼灸学領域 4つのテーマから1つのテーマを選び、考察する。 『東洋医学の古典文献の検索方法について』 『形態学的・機能学的にみた経絡について』 『鍼灸の安全性について』</p>		

	『鍼灸臨床における舌診の意義と臨床応用について』
テキスト (配付資料)	<ol style="list-style-type: none"> 1. シンプル免疫学 (改訂第5版), 中島泉, 高橋利忠, 吉開泰信, 南光堂 2. 新しい鍼灸診療, 北出利勝編集, 医歯薬出版社, 2006. <p style="text-align: center;">※ 形態学・機能学領域については適宜指示する</p>
参 考 文 献	<ol style="list-style-type: none"> 1. 鍼灸師・柔道整復師のための局所解剖カラーアトラス, 南江堂, 北村清一郎・熊本賢三編集 2. 解剖学アトラス, 文光堂, 越智淳三 3. 体表解剖カラーアトラス, 南江堂, 佐藤達夫 監訳 4. 生体の観察, 医歯薬出版, 星野一正 5. 入門組織学, 南光堂, 牛木辰男 6. 標準組織学 総論, 医学書院, 藤田恒夫・藤田尚男 7. 標準組織学 各論, 医学書院, 藤田恒夫・藤田尚男 8. Skin and its GRAY' s Anatomy (40th Ed, Chapter 3, 7), Elsevier, Ch-Ed; Susan Standing (日本語版でも OK) 9. もっとよくわかる! 免疫学, 河本宏, 羊土社 10. カラー図説・免疫、感染症と炎症性疾患における免疫応答, 笹月健彦 監訳, メディカル・サイエンス・インターナショナル 11. 図解 鍼灸臨床手技マニュアル, 尾崎昭弘著, 医歯薬出版, 2003 12. 鍼灸臨床の科学, 西條一止, 熊澤孝朗監修, 医歯薬出版, 2000 13. 東洋医学を学ぶ人のために, 高木健太郎他監修, 医学書院, 1984
評 価 方 法	小テストの受験及びレポート課題の合格を総合して評価する。
その他 (アドバイス等)	領域毎に随時、適当な文献を紹介する。

授 業 科 目 名	臨床鍼灸医学					
単 位 数 等	単位数	4 単 位	授業形態	印刷教材	授業年次	1 年
授 業 担 当 者 (◎は科目責任者) (○は領域責任者)	◎ 廣 正基 ○ 福田文彦、苗村健治、浅沼博司 ○ 角谷英治、伊藤和憲、糸井 恵 ○ 伊藤和憲、糸井啓純、高羽夏樹、樋口敏宏、田口玲奈 ○ 廣 正基、木村啓作、谷口剛志、福田晋平、山崎 翼、吉田行宏					
テ ー マ	自立した研究者を育成するため、現代西洋医学の各診療科および鍼灸臨床の専門分野において、最新の知見について学習し、臨床鍼灸医学の研究におけるベースとなる知見を理解する。					
授 業 の 概 要	<p>現代西洋医学の各診療科の分野における鍼灸臨床の対象となる可能性がある、あるいは有効と考えられるものを取り上げ、ガイドライン、診断法、治療法及び評価法などについて、最新の現代医学及び鍼灸医学に関する知見を教授する。また、鍼灸臨床の応用分野(スポーツ、予防・未病医療、高齢者医療)における意義と役割について教授する。</p> <p>【内科系領域】 (苗村健治/1回) 呼吸器系疾患における診断と治療について、最新の知見を教授する。 (浅沼博司/1回) 呼吸器系疾患および循環器疾患における診断と治療について、最新の知見を教授する。 (福田文彦/4回) 内科領域およびうつ状態(病)における予防及び治療及び鍼灸臨床の可能性も含めた最新の知見について教授する。</p> <p>【整形外科系領域】 (伊藤和憲/2回) 上肢・下肢の診方(筋痛症含む)に関する最新の知見と予防・治療法及び鍼灸臨床の可能性も含めた最新の知見について教授する。 (角谷英治/4回) 整形外科領域を中心として、英語論文の検索、日本語訳、抄読会用の資料の作成を行い、そのことを通して最新の知見について教授する。 (糸井 恵/2回) 整形外科系疾患における診断と治療について、最新の知見を教授する。</p> <p>【外科系領域】 (糸井啓純/1回) がん(特に消化器系)における診断と治療について、最新の知見を教授する。 (樋口敏宏/1回) 脳疾患(特に脳血管障害)における診断と治療について、最新の知見を教授する。 (高羽夏樹/1回) 泌尿器科疾患(主として神経因性膀胱)における診断と治療について、最新の知見を教授する。 (伊藤和憲/2回) 急性痛と慢性痛の診方について、最新の知見を教授する。 (田口玲奈/1回) 産婦人科(特に月経困難症)の病態に関する最新の知見と予防・治療法及び鍼灸臨床の可能性も含めた最新の知見について</p>					

	<p>て教授する。</p> <p>【応用鍼灸系領域】 (山崎 翼/1回) 未病医学における鍼灸臨床の応用、特に産業医学の観点から最近の知見を教授する。 (廣 正基/1回) 未病医学における鍼灸臨床の応用、特に血圧管理の観点から最近の知見を教授する。 (福田晋平/1回) 高齢者疾患に対する治療法及び鍼灸臨床の役割と意義について教授する。 (福田晋平/1回) パーキンソン病に対する治療法及び鍼灸臨床の役割と意義について教授する。 (木村啓作/1回) スポーツ傷害の病態に関する最新の知見と予防・治療法について教授する。 (吉田行宏/1回) スポーツにおけるコンディショニングに関する最新の知見と鍼灸臨床との関わりについて教授する。 (谷口剛志/1回) 海外におけるスポーツ鍼灸事情の最新の知見について教授する。</p>		
視 点 (ねらい)	<p>【内科系領域】 1. 内科系疾患及び症状(一部精神疾患を含む)において鍼灸臨床の治療対象、あるいは有効なエビデンスのあるものについてガイドライン、診断法、治療法、評価法などに関する新しい知見を理解すること</p> <p>【整形外科系領域】 1. 整形外科疾患及び症状において、鍼灸臨床の治療対象、あるいは有効なエビデンスのあるものについて、ガイドライン、診断法、治療法、評価法などに関する新しい知見を理解すること</p> <p>【外科系領域】 1. 外科疾患及び症状において、鍼灸臨床の治療対象、あるいは有効なエビデンスのあるものについて、ガイドライン、診断法、治療法、評価法などに関する新しい知見を理解すること</p> <p>【応用鍼灸系領域】 1. スポーツ分野、予防・未病医学分野、高齢者医療分野における病態、予防・治療法及び鍼灸臨床の意義と役割について理解すること</p>		
授 業 計 画			
回	概 要	備考 (授業時間外学習の指示等)	テキスト頁
1	<p>[授業概要(福田文1)] 糖尿病の疫学と病態について概説した上で、糖代謝に及ぼす鍼刺激効果について研究結果を交えて説明し、鍼灸治療が糖尿病に貢献する可能性について教授する。</p> <p>[到達目標(福田文1)] 糖尿病の疫学と病態について理解した上で、鍼灸治療が糖尿病においてどのような役割を担うことができるかを説明できる。</p>	糖尿病の病態生理については、指定参考書等を参照しつつ各自勉強してください。鍼灸治療と糖尿病との関係については講義スライドで引用している学術雑誌等の内容を中心に補足勉強してください。	

2	[授業概要(福田文2)] 消化器疾患、特に食道及び下部消化管の病態と鍼灸治療について講義する。	各疾患の病態については、指定参考書で勉強してください。その他はスライドを参照の上、適宜参考文献で補足してください。	
	[到達目標(福田文2)] 消化器疾患、特に食道及び下部消化管の病態と鍼灸治療について理解できる。		
3	[授業概要(福田文3)] 呼吸器疾患と鍼灸治療について講義する。	各疾患の病態については、指定参考書で勉強してください。その他適宜参考文献で補足してください。	
	[到達目標(福田文3)] 呼吸器疾患と鍼灸治療について理解できる。		
4	[授業概要(苗村)] 気管支喘息の診断と治療	吸気疾患の診断及び治療について、指定参考書を参照しつつ各自勉強してください。	
	[到達目標(苗村)] 気管支喘息の、現代医学からみた、病因、症状、診断、治療について理解する。		
5	[授業概要(浅沼)] 循環器系疾患における診断と治療について、最新の知見を教授する。	循環器疾患の診断及び治療について、指定参考書等を参照しつつ各自勉強してください。	
	[到達目標(浅沼)] 日常診療でしばしば遭遇する循環器疾患における診断と治療について理解できる。		
6	[授業概要(福田文4)] うつ状態(病)における西洋医学的診察、病態把握、治療及び鍼灸臨床について解説する。	うつ状態(病)における西洋医学的診察、病態把握について予習する。	
	[到達目標(福田文4)] うつ状態(病)における西洋医学的診察、病態把握、治療及び鍼灸臨床について理解する。		
7	[授業概要(伊藤1)] 上肢の痛みと筋痛疾患	はじめてのトリガーポイント鍼治療(医道の日本社)、ビジュアルでわかるトリガーポイント治療(緑書房)等で事前学習しておくことが望ましい。	p. ~
	[到達目標(伊藤 1)] 頸肩腕症候群や肩関節周囲炎など筋肉が関与する上肢の痛みに対して、鍼灸治療を行う際に必要と思われる知識(病態把握や治療法)について理解する。		
8	[授業概要(伊藤2)] 下肢の痛みと筋痛疾患	同上	p. ~
	[到達目標(伊藤 2)] 慢性腰痛など筋肉が関与する下肢の痛みに対して、鍼灸治療を行う際に必要と思われる知識(病態把握や治療法)について理解する。		
9	[授業概要(角谷1)] システムティック・レビュー文献の検索と理解	Pubmedなどを活用して英語文献の検索ならびに入手をしておくことが望ましい。	p. ~
	[到達目標(角谷 1)] システムティック・レビュー文献の検索と日本語訳、抄読会用の資料を作成する。		

10	[授業概要(角谷2)] 鍼灸の治効機序に関する文献の検索と理解	Pubmedなどを活用して英語文献の検索ならびに入手をしておくことが望ましい。	p. ~
	[到達目標(角谷 2)] 鍼灸の治効機序に関する文献の検索と日本語訳、抄読会用の資料を作成する。		
11	[授業概要(糸井恵1)] 関節疾患(変形性関節症など)の西洋医学的病態に関する診断と治療に関して最新の知見について解説する。	関節疾患の基礎知識については参考書を利用して適宜補ってください。	p. ~
	[到達目標(糸井恵 1)] 関節疾患の病態に関する最新の知見について理解する。		
12	[授業概要(糸井恵2)] 腰椎疾患(椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症など)の西洋医学的病態に関する診断と治療に関して最新の知見について解説する。	教科書を読んで、腰椎疾患の西洋医学におけるガイドラインを理解する。(診察法、診断法、治療法について)。	p. ~
	[到達目標(糸井恵 2)] 脊椎疾患の病態に関する最新の知見について理解する。		
13	[授業概要(角谷3)] 自分自身の研究テーマに関する文献の検索と理解①。	Pubmedなどを活用して英語文献の検索ならびに入手をしておくことが望ましい。	p. ~
	[到達目標(角谷 3)] 自分自身の研究テーマに関する文献の検索と日本語訳、抄読会用の資料を作成する。		
14	[授業概要(角谷4)] 自分自身の研究テーマに関する文献の検索と理解②。	Pubmedなどを活用して英語文献の検索ならびに入手をしておくことが望ましい。	p. ~
	[到達目標(角谷4)] 自分自身の研究テーマに関する文献の検索と日本語訳、抄読会用の資料を作成する。		
15	[授業概要(糸井啓1)] がん(特に消化器系)における診断と治療について、最新の知見を解説する。	胃がん治療ガイドライン(一般用)を読んで、現状の胃がん治療を理解する。胃がん治療ガイドラインを読んだ感想、内容で分かりやすい点、分かりにくい点をまとめる。胃がん治療ガイドラインは日本胃癌学会HPより、無償でダウンロードできる。 (http://www.jgca.jp/PDFfiles/GL2IPPAN.pdf)	
	[到達目標(糸井啓1)] がんの診断と治療について理解する。がんの様々な治療法が、治療ガイドラインに基づいていることを学ぶ。ここでは胃がんを中心に教授する。		
17	[授業概要(樋口1)] 脳血管障害について、出血性疾患と虚血性(閉塞性)疾患にわけて、最新の知見を含めて解説する。	脳血管障害の中でも、特にクモ膜下出血、脳出血、脳梗塞について、病態、疫学、診断、治療、予防に関する知識を蒐集し整理を行う。論文の検索、理解などによって、最新の知見を蒐集する。	
	[到達目標(樋口1)] 脳血管障害の病態、疫学、診断、治療、予防について理解する。		

18	[授業概要(高羽1)] 泌尿器疾患(主として下部尿路症状)の診断・治療および鍼灸治療について、最新の知見を教授する。	講義スライドで出てくる用語については、参考書を適宜参照しつつ理解し説明できるようにしてください。	
	[到達目標(高羽1)] 泌尿器疾患(主として下部尿路症状)の診断・治療および鍼灸治療の役割について説明できる。		
19	[授業概要(伊藤1)] 急性痛に関する診察方法と鍼灸治療のエビデンスや治効機序を教授する。	いちばんやさしい痛みの治療がわかる本(医道の日本)を参照。	
	[到達目標(伊藤1)] 急性痛に対する鍼灸治療を理解する。		
20	[授業概要(伊藤2)] 慢性痛に関する診察方法と鍼灸治療に関するエビデンスや治効機序を教授する。	いちばんやさしい痛みの治療がわかる本(医道の日本)を参照。	
	[到達目標(伊藤2)] 慢性痛に対する鍼灸治療を理解する。		
21	[授業概要(田口1)] 産婦人科疾患の病態に関する最新の知見と予防・治療法及び鍼灸臨床の可能性も含めた最新の知見について教授する。	講義スライド中の用語等に関する知識は、指定参考書等を適宜参照しつつ補ってください。	
	[到達目標(田口1)] 産婦人科疾患の病態に関する最新の知見と予防・治療法及び鍼灸臨床の可能性も含めた最新の知見について理解する。		
22	[授業概要(吉田1)] スポーツ鍼灸について		
	[到達目標(吉田1)] スポーツ分野における予防・治療法及び鍼灸臨床(スポーツ鍼灸)の意義と役割について理解すること		
23	[授業概要(福田晋1)] 高齢者疾患としてパーキンソン病を取り上げ、疾患に関する最新の知見と予防・治療法及び鍼灸臨床の方法と効果、可能性について教授する。	講義スライド中の用語等に関する知識は、指定参考書等を適宜参照しつつ補ってください。	
	[到達目標(福田晋1)] 高齢者の中枢性疾患(パーキンソン病)の病態、特徴的症候、鑑別方法、評価、鍼灸治療法を理解できる。		

24	[授業概要(福田晋2)] 高齢者疾患として認知症、高齢者うつ病を取り上げ、疾患に関する最新の知見と予防・治療法及び鍼灸臨床の方法と効果、可能性について教授する。		
	[到達目標(福田晋 2)] 高齢者の中枢性疾患（認知症、高齢者うつ病）の病態、特徴的症状、鑑別方法、評価、鍼灸治療法を理解できる。		
25	[授業概要(廣1)] 未病医学における鍼灸臨床の応用、生活習慣病である高血圧症について血圧管理の観点から最近の知見を教授する。	講義スライド中の用語等に関する知識は、指定参考書等を適宜参照しつつ補ってください。	
	[到達目標(廣 1)] 日本の高血圧ガイドラインについて把握するとともに、高血圧に対する鍼灸臨床の現状および血圧管理への応用について理解する。		
26	[授業概要(山崎1)] 労働者の健康状況や健康問題についてふれ、それに対する鍼灸治療の有用性について紹介する。	関連文献（論文）による予習と復習をする。	
	[到達目標(山崎 1)] 労働者の健康管理を目的とした、産業領域における鍼灸治療の実際について知識をえる。		
27	[授業概要(木村1)] (1) コンタクト及びノンコンタクトスポーツにおける傷害の予防・治療・競技復帰までのリハビリテーションについて。(2) スポーツにおける傷害予防およびパフォーマンス向上に関する最新の研究について。	講義スライド中の用語等に関する知識は、指定参考書等を適宜参照しつつ補ってください。	
	[到達目標(木村 1)] スポーツ分野における傷害の予防や治療方法（鍼灸治療の役割も含む）を理解する。		
28	[授業概要(谷口剛)] 海外におけるスポーツ鍼灸について教授する。		
	[到達目標(谷口剛)] 海外におけるスポーツ鍼灸について理解する。		
リポート課題		<p>《課題1》【内科系領域】</p> <p>内科系疾患及あるいは症候（消化器、呼吸器、循環器）またはうつ病のいずれか1つについて、疾患（症候）の分類、診断、評価等について概説した上で、鍼灸治療の可能性について既存のエビデンスを含めて考察する。</p> <p>《課題2》【整形外科系領域】</p> <p>整形外科系疾患及び及び症状（腰下肢痛、膝痛、上肢痛、下肢痛など）</p>	

	<p>からいずれか1つを選んで、ガイドライン、診断法、治療法、評価法及び鍼灸臨床の可能性について考察する。</p> <p>《課題3》【外科系領域】</p> <p>外科系疾患及び症状において、ガイドライン、診断法、評価法及び鍼灸臨床の可能性について、講義内容に含まれる疾患や症状の範囲からいずれか1つを選んでレポートする。</p> <p>《課題4》【応用鍼灸系領域】</p> <p>スポーツ傷害分野、予防・未病医療分野、高齢者医療分野のいずれか1つを選んで、鍼灸臨床の意義及び役割についてエビデンスを踏まえて考察する。</p>
テキスト（配付資料）	『図解 鍼灸療法技術ガイド』矢野忠他編著 文光堂 2010
参 考 文 献	<ol style="list-style-type: none"> 1. 内科学第7版：杉本恒明ほか編, 朝倉書店, 2009 2. 新臨床内科学第9版：高久史麿ほか編, 医学書院, 2009 3. 鍼灸学臨床編：天津中医薬大学ほか編, 東洋学術出版社, 1993 4. 標準外科学：北島政樹編集, 医学書院, 2010 5. 標準整形外科学：中村利孝編集, 医学書院, 2008 6. 図解整形外科学診断ガイド：露口雄一他著, 文光堂, 1996 7. 整形外科テスト法：斉藤明議監訳. 医道の日本, 1995 8. 排尿障害のすべて：渡邊泱著 医薬ジャーナル社, 1998 9. よくわかる排尿トラブルの対処法：三木恒治・中尾昌宏編, 昭和堂, 2008 10. 現代の眼科学（改訂第9版）：所 敬, 吉田晃敏編著, 金原出版, 2006
評 価 方 法	小テストの受験及びレポート課題の合格を総合して評価する。
その他（アドバイス等）	全日本鍼灸学会雑誌参考。随時、参考文献・資料を指示・推薦する。

授 業 科 目 名	医学研究法					
単 位 数 等	単位数	1 単位	授業形態	印刷教材	授業年次	1 年
授 業 担 当 者 (◎は科目責任者)	◎梅田雅宏、川喜田健司、渡邊康晴					
テ ー マ	自立した研究者を育成するため、実験に関する基本的な実験計画法(研究デザイン、研究機器、評価法など)、統計処理などについて理解する。					
授 業 の 概 要	<p>研究計画の立案、各種実験系の方法論に関する基本的な知識および統計処理の仕方について教授する。</p> <p>(川喜田健司/2回) 研究者は、どのように研究を行い論文を書くことが必要かを教授する。論文の書き方(実験目的・方法・結果のまとめ方・考察)について教授する。</p> <p>(梅田・渡邊/6回) 医学分野で必要とされる統計法の使い方について教授する。研究計画を立てる基本となる統計について理解し、研究計画を立案できるようにする。</p> <p>本講義の課題レポートで模擬的な研究立案を行う。</p>					
視 点 (ねらい)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 論文作成の基本について理解する。 2. 基本的な統計処理の方法について理解する。 3. 様々な統計法を理解し、研究で収集するデータの尺度を理解する。 4. 実際の研究計画はどのように立案するのかを理解する。 					
授 業 計 画						
回	概 要			備考 (授業時間外学習の指示等)		ページ
1	[授業概要(川喜田1)] 論文の書き方について			動画とpdf資料を見て各自学修し、小テストを受ける		
	[到達目標(川喜田1)] 論文の書き方を理解する					
2	[授業概要(川喜田2)] 査読の持つ意味			動画とpdf資料を見て各自学修し、小テストを受ける		
	[到達目標(川喜田2)] 査読の持つ意味を理解する					
3	[授業概要(梅田1)] 統計の考え方について			動画またはpdf資料を見て各自学修し、小テストを行う。		
	[到達目標(梅田1)] 医学研究入門で学修した統計の考え方を発展させ、統計の理解を深める。					
4	[授業概要(梅田2)] 統計の用語解説と基本的な検定について			動画または資料を見て各自学修し、小テストを行う。		
	[到達目標(梅田2)] 統計用語の理解を深める					
5	[授業概要(梅田3)] Excelによるパラメトリック・ノンパラメトリック検定について			動画またはpdf資料を見て各自学修し、小テスト(excelによる表およびグラフの作成)を行う。ファイル提出あり(5-1と5-2)。		
	到達目標(梅田3)] Excelを用いてパラメトリックおよびノンパラメトリック検定を行い、その概念の理解を深める					
6	[授業概要(渡邊1)] 統計の概論と名義尺度の検定1			動画または資料を見て各自学修し、小テストを行う(6-1と6-2)。(記述回答ファイルの送信あり)。		
	[到達目標(渡邊1)] 統計の概念を復習し、名義尺度を理解する。					

7	[授業概要(渡邊2)] 一元配置分散分析	動画または資料を見て各自学修し、小テストを行う。(ファイル提出あり)	
	[到達目標(渡邊2)] 一元配置分散分析の理解を深める。		
8	[授業概要(渡邊3)] 多重比較検定と二元配置分散分析	動画または資料を見て各自学修し、小テストを行う。(ファイル提出あり)	
	[到達目標(渡邊3)] 多重比較検定と二元配置分散分析について理解を深める。		
リポート課題	《課題》(梅田) 統計と研究計画を理解するために、各自が想定する研究計画(模擬的なものでよい)と利用する統計およびその理由を述べる。		
テキスト(配付資料)	各自の研究テーマより指示する。		
参考文献	EBMの工具箱第2版(EBMライブラリー),カール・ヘネガン,ダグラス・バデノック,中山書店,2007		
評価方法	小テストの受験及びレポート課題の合格を総合して評価する。		
その他 (アドバイス等)	随時、適当な文献を紹介する。 MS Excelの導入を強く勧める(Win、Macは問わない)。 (ホームページを参考にしても操作が分からない人は ume@meiji-u.ac.jp まで連絡をしてください。)		

授 業 科 目 名	統合医療学					
単 位 数 等	単位数	1 単位	授業形態	印刷教材	授業年次	1 年
授 業 担 当 者	今西二郎					
テ ー マ	統合医療の概念、日本および世界における統合医療の現状を理解し、日本における統合医療のあり方及び統合医療における伝統医療の役割について考える。					
授 業 の 概 要	医学・医療のこれまでの歴史を踏まえ、現代医療の特徴と問題点を把握することにより、今、なぜ統合医療が注目されているのかを理解する。①統合医療の概念、②統合医療の現状と課題、③統合医療と医療行政、④統合医療と心身医学、⑤統合医療と先端医学、⑥統合医療と高齢者、⑦統合医療と健康食品、⑧統合医療の世界の動向などについて学修し、統合医療のあるべき姿、方向性について考えることを通して統合医療の基礎を理解する。					
視 点 (ねらい)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 統合医療の概念について理解すること 2. 近代医学の特徴および長所と短所を理解すること 3. 伝統医学、CAM の特徴および長所と短所を理解すること 4. 統合医療の意義、理念および形態について考えること。 5. 統合医療における伝統医療の役割について考えること。 					
授 業 計 画						
回	概 要		備考 (授業時間外学習の指示等)		テキスト 頁	
1	[授業概要(今西1)] 補完・代替医療総論1		統合医療 (テキスト)		p. 2 ~60	
	[到達目標(今西1)] 補完・代替医療の定義を理解し、その種類を挙げることができる。					
2	[授業概要(今西2)] 補完・代替医療総論2		統合医療 (テキスト)		p. 63 ~83 p. 92 ~102	
	[到達目標(今西2)] 補完・代替医療の特徴、各国の現状、わが国の現状を理解する。 また、補完・代替医療の問題点を理解し、また補完・代替医療の科学的根拠を確立するための方策を考える。					
3	[授業概要(今西3)] 日本伝統医学としての漢方		入門漢方医学 (文献1)		p. 30 ~83 p. 86 ~176 p. 178 ~256	
	[到達目標(今西3)] 漢方医学での病態の捉え方を理解し、診断法を知る。生薬と漢方方剤を理解する。各臨床症状に対する漢方方剤の実際の使い方を理解する。					

4	[授業概要(今西4)] メディカル・アロマセラピー1	メディカル・アロマセラピー (文献3)	p. 2 ~101
	[到達目標(今西4)] メディカル・アロマセラピーの定義、エッセンシャルオイル、方法、対象疾患・症状とそのレシピなどを理解する。メディカル・アロマセラピーの実際について、理解する。		p. 110 ~202
5	[授業概要(今西5)] サプリメント	医療従事者のための補完代替医療 (文献4) 統合医療 (テキスト)	p. 127 ~138
	[到達目標(今西5)] サプリメントの定義、特定保健用食品と栄養機能食品を理解する。その他の主なサプリメント、医薬人の相互作用について、概説できる。		p. 18 ~21
6	[授業概要(今西6)] 温泉(温浴)療法	医療従事者のための補完代替医療 (文献4))	p. 335 ~342
	[到達目標(今西6)] 温泉とは、温泉の効果、入浴剤の効果、温泉療法の実際について理解する。		
7	[授業概要(今西7)] 統合医療総論1	統合医療 (テキスト)	p. 2 p. 104 ~106
	[到達目標(今西7)]。統合医療の定義、現状、がんと統合医療を理解し、そのあり方を考える。		
8	[授業概要(今西8)] 統合医療総論2	統合医療 (テキスト)	p. 103 ~133
	[到達目標(今西8)] 次世代型統合医療とは、スピリチュアリティとは、次世代型統合医療の実践例について知る。健康創生型統合医療を理解する。		
リポート課題	鍼灸師として実践したいと思う統合医療について		
テキスト(配付資料)	今西二郎：統合医療 改訂2版, 金芳堂, 2015.		
参考文献	1. 入門漢方医学, 日本東洋医学会学術教育委員会編集, 南江堂, 2002. 2. 『統合医療 基礎と臨床』 Part1. 基礎編, 日本統合医療学会, 2007. 3. 今西二郎: メディカル・アロマセラピー改訂第3版, 金芳堂, 2015. 4. 今西二郎: 医療従事者のための補完代替医療第2版, 金芳堂, 2009.		
評価方法	小テストの受験及びレポート課題の合格を総合して評価する。		
その他(アドバイス等)	日本統合医療学会誌を参考とする。		

授 業 科 目 名	学際鍼灸医学					
単 位 数 等	単位数	1 単位	授業形態	印刷教材	授業年次	1 年
授 業 担 当 者 (◎は科目責任者)	◎梅田雅宏、伊藤和憲、山崎 翼					
テ ー マ	医療と情報、医療と社会、健康の病気などの各分野における中心的内 容を取り上げ、学際的な観点から鍼灸医学をとらえなおす。					
授 業 の 概 要	<p>①医療と情報、②医療と社会、③予防と未病、④健康と病気の各分野 における中心的内容をとり上げ、それらと鍼灸医学との関連性につい て教授する。</p> <p>(梅田雅宏/2 回) 医療情報に関する最新の知見として、医療情報と は何か、医療情報の意義と価値などについて教授する。</p> <p>(矢野 忠/2 回) 健康論の変遷などについて、健康と病気との関係 性を通して健康とは何か、健康と伝統医学との関係を教授する。</p> <p>(山崎 翼/2 回) 予防医学、未病医学の概要として、貝原益軒の『養 生訓』にみる養生の意義や未病医学の意義などについて教授する。</p> <p>(伊藤和憲/2 回) 医療問題について教授する。</p>					
視 点 (ねらい)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療情報とは何か、その意義と価値について理解すること。 2. 医療社会学という学問について理解すること。 3. 養生の意義と未病医学の意義と視点について理解すること 4. 健康と病気及び健康論について理解すること 5. 鍼灸医学における学際的な視点の必要性について考えること 					
授 業 計 画						
回	概 要	備考 (授業時間外学習の指示等)			テキスト 頁	
1	<p>[授業概要(梅田1)] 医療に関連する情報の 創出とそのデータの扱い方、利用の仕方を 考え、現在の医療データ管理の現状を学習 する。また、IT化の進化としてネットワ ークシステムについて解説し、その医療へ の応用を解説し、医療とコンピュータの関 わりについて理解を深める。</p> <p>[到達目標(梅田1)] 医療行為に伴う情報の 種類や内容を理解し、医療情報の収集、整 理、利用法を考え、ネットワークシステム を生かした医療情報システムが運用されよ うとしていることを理解する。</p>	小テストの提出：高齢者医療への コンピュータ技術応用のメリット とデメリット。(記述形式 300 字以 内)			1 の p.2 ～75	

2	[授業概要(梅田2)] 病院における医療情報の種類と流れを把握し、現在の病院システムを解説する。さらに検査データについての種類とその種別について解説する。また電子カルテなどにおけるメリットとデメリットについて解説する。	小テストの提出：医療記録をデジタル化するために必要な取り決めについてまとめる。(記述形式 300字以内)	1 の p. 78 ~ 161, 274~ 313
	[到達目標(梅田 2)] 医療行為に伴う情報の性質について理解し、その扱い方やコンピュータを利用した情報の流れを理解する。		
3	[授業概要(伊藤1)] 医療問題 「慢性痛」を例に、治療には鍼灸治療以外にも、セルフケアやセルフマネジメントなどの方法論が必要不可欠であることを教授する。	慢性痛や線維筋痛症などの関連論文の読解	
	[到達目標(伊藤 1)] 医療問題 鍼灸治療の中にセルフケアやセルフマネジメントの方法が必要であることを理解する。		
4	[授業概要(伊藤2)] 医療問題 医療費の高騰や財政の逼迫など、本邦が抱える医療問題の中で、鍼灸治療がどのように進むべきかについて教授する。		
	[到達目標(伊藤 2)] 医療問題 本邦における医療問題と鍼灸治療の可能性について理解する。		
5	[授業概要(矢野1)] 「健康」という用語の誕生と「健康」という概念について学習するとともに東洋医学の健康観について学習する。特に明治期に健康に対する概念の変化について理解する。	健康観の転換－新しい理論の展開, 園田恭一, 川田千恵子, 東京大出版会	p. ~
	[到達目標(矢野 1)] 「健康」という用語の誕生とその概念の変化について理解する。		
6	[授業概要(矢野2)] 「健康」に対する捉え方と多様な健康観について学習し、健康という概念の多義性と各々の健康観の特徴を理解する。そのことを通して、健康についての自己の視点を涵養する。	健康観の転換－新しい理論の展開, 園田恭一, 川田千恵子, 東京大出版会	p. ~
	[到達目標(矢野 2)] 「健康」の多様な捉え方と各健康観の特徴を理解する。		
7	[授業概要(山崎1)] 貝原益軒とは、養生訓の重要な考え方について概説する。	関連資料の読解	p. ~
	[到達目標(山崎 1)] 養生訓の総論について理解する。		

8	[授業概要(山崎2)] 養生訓の具体的な養生法(飲食、鎮病、択医、用薬、養老、鍼灸)の主な内容について紹介する。	関連資料の読解	p. ~
	[到達目標(山崎2)] 養生訓の各論について理解する。		
リポ ー ト 課 題	《課題》 『鍼灸医学における学際領域との関連について』		
テキスト(配付資料)	1. 医療情報 医学・医療編 新版, 日本医療情報学会医療情報技師育成部会, 2009. 2. 医療社会学を学ぶ人のために, 進藤雄三, 黒田浩一郎, 世界思想社, 1999. 3. 養生・未病に関する配布資料 4. 新しい理論の展開, 園田恭一, 川田千恵子, 東京大出版会		
参 考 文 献	1. 医療情報学入門, 樺澤 一之, 豊田 修一, 共立出版, 2006. 2. 医療社会学を学ぶ人のために, 進藤雄三, 黒田浩一郎編, 世界思想社, 2001. 3. わかりやすい医療社会学, 野村拓, 藤崎和彦, 看護の科学者, 1997.		
評 価 方 法	小テストの受験及びレポート課題の合格を総合して評価する。		
その他(アドバイス等)	随時、適当な文献を紹介する。		

授 業 科 目 名	教育学概論					
単 位 数 等	単位数	1 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年前期
授 業 担 当 者	◎ 廣 正基、河井正隆					
テ ー マ	教育学の理解とそれに必要な知識の学修					
授 業 の 概 要	教育学について、理療教育学を中心として学習し、その内容について理解する。特に、①理療教育の序論、②教育方法、③教材の作成と評価、④教育実習、⑤教育心理、⑥発達、⑦特別支援教育、⑧児童心理などについて理解を深め、教育学の基礎的内容について理解する。					
視 点 (ねらい)	1. 教育学の基礎的内容について理解する 2. 理療教育について必要な知識 3. 教育方法や評価について理解すること 4. 教育心理や児童心理などについて考えること					
授 業 計 画						
回	概 要	備考 (授業時間外学習の指示等)				テキスト 頁
1	[授業概要] 理療教育学 序説 (河井 1) [到達目標] 理療科教育に関する基礎的内容について理解する。					
2	[授業概要] 教育方法と技術のとらえ方 (河井 2) [到達目標] 教育方法とその技術について、基礎的な内容を理解する。					
3	[授業概要] 教材の作成と教育評価 (河井 3) [到達目標] 教材の作成方法とその教育評価について、実際の方法に基づいて学習し、理解する。					
4	[授業概要] 教育実習 (概論) (河井 4) [到達目標] 教育実習の概論について学習する。					
5	[授業概要] 教育心理学とこころの構造 (廣 1) [到達目標] 教育心理学とこころの構造について基礎的内容を理解する。					
6	[授業概要] さまざまな発達 (廣 2) [到達目標] 発達に関する基礎的内容について理解する。					
7	[授業概要] 特別支援教育 (廣 3) [到達目標] 特別支援教育について基礎的な内容を学習し、理解する。					

8	<p>[授業概要] 児童期・思春期・青年期の問題 (廣4)</p> <p>[到達目標] 不登校やストレス、いじめなどを含めた諸問題を含めて、各時期の問題について学習し、理解する。</p>		
リポ ー ト 課 題			
テキスト (配付資料)	配布資料及び 吉川恵士 (監修) : 理療教育学 序説, ジアース教育新社, 2015.		
参 考 文 献	特になし		
評 価 方 法	出席や授業態度、実習態度、授業での積極的な姿勢 (発言など) などによって総合的に評価する (60 点以上を合格とする)。		
その他 (アドバイス等)	特になし		

授 業 科 目 名	予防医学					
単 位 数 等	単位数	1 単位	授業形態	印刷教材	授業年次	1 年
授 業 担 当 者	伊藤和憲					
テ ー マ	統合医療の基本となる養生について、その原理と基礎となる理論を学習することで、統合医療の本質を理解する					
授 業 の 概 要	養生の基礎となる①身体を知る、②身体を緩める、③身体を鍛える、④身体を整える、⑤身体を温める、⑥身体と食習慣、⑦身体と生活習慣について学ぶことで、エビデンスに基づく現代版養生訓を理解する。					
視 点 (ねらい)	1. 養生について理解する。 2. 養生の基本理論と方法論を理解する。 養生を活用できるための方法を理解する。					
授 業 計 画						
日程	概 要			備考 (授業時間外学習の指示等)		
1	[授業概要] 養生とは？ [到達目標] 養生とは何かについて、その霧論を学習する。					
2	[授業概要] 養生教育1：身体を知る [到達目標] 養生の基礎である身体のサインについて理解する					
3	[授業概要] 養生教育2：身体をゆるめる [到達目標] 身体をゆるめることについて、その方法論を理解する					
4	[授業概要] 養生教育3：身体を温める [到達目標] 身体を温めることについて、その方法論を理解する					
5	[授業概要] 養生教育4：身体を整える1 [到達目標] 心や自律神経と身体の関係について、その方法論を理解する					
6	[授業概要] 養生教育5：身体と整える2 [到達目標] 身体と食事や思考について、その方法論を理解する					
7	[授業概要] 養生教育6：身体を鍛える [到達目標] 身体を鍛えることについて、その方法論を理解する					
8	[授業概要] 養生教育7：今後の予防医療 [到達目標] 未来の予防医療についてありかたを理解する。					

リポ ー ト 課 題	
テ キ ス ト	配布テキスト
参 考 文 献	1. 伊藤和憲：慢性痛は自分で治せる（KK ベストセラーズ） 2. 伊藤和憲：いちばんやさしい痛み治療（医道の日本）
評 価 方 法	小テストの受験及びレポート課題の合格を総合して評価する。
その他（アドバイス等）	特になし

授 業 科 目 名	鍼灸医学特論					
単 位 数 等	単位数	1 単位	授業形態	印刷教材	授業年次	1 年
授 業 担 当 者 (◎は科目責任者)	◎角谷英治、川喜田健司、岡田 薫、					
テ ー マ	最新の基礎研究におけるトピックス、特に鍼灸医学と関連するテーマを取りあげ、基礎医学研究の成果とその意義について考える。					
授 業 の 概 要	<p>(概要) 現代医学における基礎研究の最新のトピックスを取りあげ、どのような研究が注目され、研究対象とされているかについて医学情報を紹介し、最新の基礎医学研究の成果とその解釈(考察)について教授する。</p> <p>(川喜田健司/1回) 痛みに関する最新の知見として、痛みのメカニズムと内因性鎮痛システムなどについて教授する。(トリガーポイントの発現機序を含む)</p> <p>(角谷英治/4回) 鍼灸刺激と鎮痛系に関する最新の知見として、ハリ刺激の鎮痛効果とその作用機序などについて教授する。</p> <p>(岡田 薫/2回) 痛みに関する最新の知見として、痛みのメカニズムと内因性鎮痛システムなどについて教授する。</p>					
視 点 (ねらい)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 痛みに関する最新の知見について理解すること 2. 体性自律神経反射の最新の知見について理解すること 3. 最新の基礎医学研究の進歩について考えること 					
授 業 計 画						
回	概 要			備考(授業時間外学習の指示等)		テキスト頁
1	[授業概要(川喜田1)] トリガーポイントの成因と鎮痛機序			関連論文および資料の読解		
	[到達目標(川喜田1)] トリガーポイントの成因と内因性鎮痛系への関与を理解する。					
2	[授業概要(岡田1)] 痛みのメカニズムと内因性鎮痛系			関連論文および資料の読解		
	[到達目標(岡田1)] 痛みの発生と内因性鎮痛系について理解する。					
3	[授業概要(岡田2)] 鍼灸刺激の自律機能に対する影響					
	[到達目標(岡田2)] 鍼灸刺激の自律機能に対する影響について理解する。					
4	[授業概要(角谷1)] 鍼鎮痛の概要			鍼刺激の特性と内因性鎮痛系について予習する。		
	[到達目標(角谷1)] 鍼鎮痛の概要について理解できる。					
5	[授業概要(角谷2)] 上行性痛覚抑制と末梢性鎮痛			上行性痛覚抑制系と末梢性鎮痛に関する論文を読み、簡単にまとめる。		
	[到達目標(角谷2)] 鍼鎮痛における上行性痛覚抑制と末梢性鎮痛の関与の可能性について理解できる。					

6	[授業概要(角谷3)] 痛みの生理と鍼灸刺激の求心路(1)		
	[到達目標(角谷3)] 痛みの生理と鍼灸刺激の求心路について理解できる。		
7	[授業概要(角谷4)] 痛みの生理と鍼灸刺激の求心路(1)		
	[到達目標(角谷4)] 痛みの生理と鍼灸刺激の求心路について理解できる。		
リポート課題	《課題》 1～8回の授業から一つを取り上げ、授業内容を整理するとともに考察を加える。		
テキスト(配付資料)	※ 参考文献を参照		
参考文献	1. トリガーポイント鍼両方, 川喜田健司慣習, 医道の日本社, 1995 2. 痛みのメカニズム, 横田敏勝, 南江堂, 1997 3. 鍼灸臨床の科学, 西条一止, 熊澤孝朗監修, 医歯薬出版, 2000. 4. 体性-自律神経反射の生理学, 佐藤 昭夫/佐藤 優子/R.F. シュミット 山口 眞二郎, シュプリングー・ジャパン, 2007.		
評価方法	小テストの受験及びレポート課題の合格を総合して評価する。		
その他(アドバイス等)	随時、適当な文献を紹介する。		

■ 専門科目

授 業 科 目 名	伝統鍼灸学研究法					
単 位 数 等	単位数	2 単位	授業形態	印刷教材	授業年次	1 年
授 業 担 当 者	和辻 直					
テ ー マ	研究課題と関連する研究法(研究デザイン、測定法、評価法など)、特にヒトを対象とした研究法について理解する。					
授 業 の 概 要	医学古典に関する研究、東洋医学の理論に関する研究、経絡経穴現象に関する研究、四診法の客観化に関する研究などに関する研究法を教授する。 (和辻 直) 四診に関する研究法を教授する。					
視 点 (ねらい)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究課題に関連する研究デザインについて理解すること 2. 研究課題に関連する測定法や評価法を理解すること 3. 研究計画を作成できること。 4. データを統計処理できること 5. 研究課題に関する全体の研究計画について考える。 					
リポ ー ト 課 題	(和辻 直) 《課題1》『舌診に関する研究法について』 《課題2》『証に関する研究法について』					
テキスト (配付資料)	各自の研究テーマより指示する。					
参 考 文 献	各自の研究テーマより指示する。					
評 価 方 法	レポート課題に合格した後、科目修了試験を行い、総合して評価する。					
その他 (アドバイス等)						

授 業 科 目 名	鍼灸基礎医学研究法					
単 位 数 等	単位数	2 単位	授業形態	印刷教材	授業年次	1 年
授 業 担 当 者	角谷英治					
テ ー マ	研究課題と関連する研究法(研究デザイン、測定法、評価法など)、特にヒトを対象とした研究法について理解する。					
授 業 の 概 要	鍼灸基礎医学分野における研究課題(安全性を含む)、特にヒトを対象とした研究法について教授する。 (角谷英治) ヒトの痛みの測定及び痛み反応に関する研究法について教授する。					
視 点 (ね ら い)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究課題に関連する研究デザインについて理解すること 2. 研究課題に関連する測定法や評価法を理解すること 3. 研究計画を作成できること。 4. データを統計処理できること 5. 研究課題に関する全体の研究計画について考える。 					
リ ポ ー ト 課 題	<p>レポート課題は、研究課題と関連する課題とする。 (角谷英治)</p> <p>《課題1》『ヒトにおける痛みの反応を指標とした研究内容について』 《課題2》『ヒトにおける痛み及び痛み反応の測定法について』</p>					
テ キ ス ト (配 付 資 料)	各自の研究テーマより指示する。					
参 考 文 献	各自の研究テーマより指示する。					
評 価 方 法	レポート課題に合格した後、科目修了試験を行い、総合して評価する。					
そ の 他 (ア ド バ イ ス 等)	レポート課題に関連する学術雑誌					

授 業 科 目 名	鍼灸臨床医学研究法					
単 位 数 等	単位数	2 単位	授業形態	印刷教材	授業年次	1 年
授 業 担 当 者	伊藤和憲、福田文彦、宮坂卓治					
テ ー マ	研究課題と関連する研究法(研究デザイン、測定法、評価法など)、特にヒトを対象とした研究法について理解する。					
授 業 の 概 要	<p>鍼灸臨床医学分野における研究課題、特にヒトを対象とした研究法について教授する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筋肉痛(筋痛症を含む)における鍼灸の臨床研究に関する研究法(疫学的な調査研究法含む)について ・運動器系、特に腰痛における鍼灸の臨床研究に関する研究法(疫学的な調査研究法含む)について ・心身医学・精神疾患及び症状における鍼灸の臨床研究に関する研究法(疫学的な調査研究法含む)について 					
視 点 (ね ら い)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究課題に関連する研究デザインについて理解すること 2. 研究課題に関連する測定法や評価法を理解すること 3. 研究計画を作成できること。 4. データを統計処理できること 5. 研究課題に関する全体の研究計画について考える。 					
リ ポ ー ト 課 題	<p>(伊藤和憲)</p> <p>《課題1》『筋肉痛(筋痛症含む)に関する研究内容について』</p> <p>《課題2》『筋肉痛(筋痛症含む)における各種測定・評価法について』</p> <p>(井上基浩)</p> <p>《課題1》『腰痛に関する研究内容について』</p> <p>《課題2》『腰痛における各種測定・評価法について』</p> <p>(福田文彦)</p> <p>《課題1》『心身医学・精神疾患(症状含む)に関する研究内容について』</p> <p>《課題2》『心身医学・精神疾患(症状含む)における各種測定・評価法について』</p>					
テキスト(配付資料)	各自の研究テーマより指示する。					
参 考 文 献	各自の研究テーマより指示する。					
評 価 方 法	レポート課題に合格した後、科目修了試験を行い、総合して評価する。					
その他(アドバイス等)	レポート課題に関連する学術雑誌					

授 業 科 目 名	健康予防医学研究法					
単 位 数 等	単位数	2 単位	授業形態	印刷教材	授業年次	1 年
授 業 担 当 者	廣 正基、河井正隆					
テ ー マ	研究課題と関連する研究法(研究デザイン、測定法、評価法など)、特にヒトを対象とした研究法について理解する					
授 業 の 概 要	ヘルスサイエンス分野(「スポーツ」、「予防・未病・養生」、「高齢者」の3分野)におけるヒトを対象とした臨床的な研究課題に関する研究法を教授する。					
視 点 (ね ら い)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究課題に関連する研究デザインについて理解すること 2. 研究課題に関連する測定法や評価法を理解すること 3. 研究計画を作成できること。 4. データを統計処理できること 5. 研究課題に関する全体の研究計画について考える。 					
リ ポ ー ト 課 題						
テキスト(配付資料)	各自の研究テーマより指示する。					
参 考 文 献	各自の研究テーマより指示する。					
評 価 方 法	レポート課題に合格した後、科目修了試験を行い、総合して評価する。					
その他(アドバイス等)	レポート課題に関連する学術雑誌					

授 業 科 目 名	伝統鍼灸学演習					
単 位 数 等	単位数	4 単位	授業形態	印刷教材 (2 単位) 面接授業 (2 単位)	授業年次	1・2 年
授 業 担 当 者	和辻 直					
テ ー マ	修士論文のテーマに則した課題を設定し、関連する学術論文を中心に研究の現状と研究成果を把握し、研究の意義及び価値とオリジナリティーについて理解する。					
授 業 の 概 要	より高度な東洋医学の診断法・治療法と日本で独自に発展してきた伝統医学の診断・治療法、さらに医学古典、東洋医学の理論などの諸問題について教授・研究する。 スクーリングでは、研究を実践する上で必要なテクニックを修得できるよう指導する。 (和辻 直) 東洋医学の診察法に関する研究成果の諸問題点について教授・研究する。					
視 点 (ね ら い)	1. 修士論文のテーマに関する研究の現状と問題点について理解すること 2. 修士論文のテーマに関する研究成果について理解すること 3. 修士論文の意義と価値及びオリジナリティーについて理解すること					
リ ポ ー ト 課 題	《課題1》『研究課題に関連する先行研究の研究方法及び研究成果の整理とそれらの問題点について』その1 《課題2》『研究課題に関連する先行研究の研究方法及び研究成果の整理とそれらの問題点について』その2					
テキスト（配付資料）	各自の研究テーマより指示する。					
参 考 文 献	各自の研究テーマより指示する。					
評 価 方 法	レポート課題に合格した後、科目修了試験を行い、総合して評価する。 面接授業（スクーリング）については、授業最終時に筆記試験あるいは口述試験を行い評価する。					
その他（アドバイス等）	レポート課題の作成にあたっては、スクーリングでの指導が必要になりますので、出席が不可欠です。					

授 業 科 目 名	鍼灸基礎医学演習					
単 位 数 等	単位数	4 単位	授業形態	印刷教材 (2 単位) 面接授業 (2 単位)	授業年次	1・2 年
授 業 担 当 者	角谷英治、林 知也					
テ ー マ	修士論文のテーマに則した課題を設定し、関連する学術論文を中心に研究の現状と研究成果を把握し、研究の意義及び価値とオリジナリティーについて理解する。					
授 業 の 概 要	鍼灸刺激および刺鍼手技・施灸手技などの作用機序に関する研究論文の諸問題(研究目的、研究方法、結果、考察など)及び鍼灸の安全性について教授・研究する。スクーリングでは、研究を実践する上で必要なテクニックを修得できるよう指導する。 (角谷英治) 鍼灸刺激の作用機序、特に鎮痛系に関する諸問題について教授・研究する。					
視 点 (ね ら い)	1. 修士論文のテーマに関する研究の現状と問題点について理解すること 2. 修士論文のテーマに関する研究成果について理解すること 3. 修士論文の意義と価値及びオリジナリティーについて理解すること					
リ ポ ー ト 課 題	(各教員共通) 《課題1》『研究課題に関連する先行研究の研究方法及び研究成果の整理とそれらの問題点について』					
テ キ ス ト (配 付 資 料)	各自の研究テーマより指示する。					
参 考 文 献	各自の研究テーマより指示する。					
評 価 方 法	レポート課題に合格した後、科目修了試験を行い、総合して評価する。面接授業(スクーリング)については、授業最終時に筆記試験あるいは口述試験を行い評価する。					
そ の 他 (ア ド バ イ ス 等)	レポート課題の作成にあたっては、スクーリングでの指導が必要になりますので、出席が不可欠です。					

授 業 科 目 名	鍼灸臨床医学演習					
単 位 数 等	単位数	4 単位	授業形態	印刷教材 (2 単位) 面接授業 (2 単位)	授業年次	1・2 年
授 業 担 当 者	伊藤和憲、角谷英治、福田文彦、宮坂卓治					
テ ー マ	修士論文のテーマに則した課題を設定し、関連する学術論文を中心に研究の現状と研究成果を把握し、研究の意義及び価値とオリジナリティーについて理解する。					
授 業 の 概 要	鍼灸臨床医学分野におけるヒトを対象とした臨床的な研究論文の諸問題(研究目的、研究方法、結果、考察など)について教授・研究する。スクーリングでは、研究を実践する上で必要なテクニックを修得できるよう指導する。 ・筋肉痛(筋痛症含む)の臨床研究に関する諸問題について ・運動器系、特に腰痛の臨床研究に関する諸問題について ・心身医学・精神神経科領域の臨床研究に関する諸問題について					
視 点 (ね ら い)	1. 修士論文のテーマに関する研究の現状と問題点について理解すること 2. 修士論文のテーマに関する研究成果について理解すること 3. 修士論文の意義と価値及びオリジナリティーについて理解すること					
リ ポ ー ト 課 題	(各教員共通) 《課題1》『研究課題に関連する先行研究の研究方法及び研究成果の整理とそれらの問題点について』その1 《課題2》『研究課題に関連する先行研究の研究方法及び研究成果の整理とそれらの問題点について』その2 《課題3》『研究課題に関連する先行研究の研究方法及び研究成果の整理とそれらの問題点について』その3					
テキスト (配付資料)	各自の研究テーマより指示する。					
参 考 文 献	各自の研究テーマより指示する。					
評 価 方 法	レポート課題に合格した後、科目修了試験を行い、総合して評価する。面接授業 (スクーリング) については、授業最終時に筆記試験あるいは口述試験を行い評価する。					
その他 (アドバイス等)	レポート課題の作成にあたっては、スクーリングでの指導が必要になりますので、出席が不可欠です。					

授 業 科 目 名	健康予防医学演習					
単 位 数 等	単位数	4 単位	授業形態	印刷教材 (2 単位) 面接授業 (2 単位)	授業年次	1・2 年
授 業 担 当 者	角谷英治、梅田雅宏、廣 正基、河井正隆					
テ ー マ	修士論文のテーマに則した課題を設定し、関連する学術論文を中心に研究の現状と研究成果を把握し、研究の意義及び価値とオリジナリティーについて理解する。					
授 業 の 概 要	ヘルスサイエンス(「スポーツ」、「予防・未病・養生」、「高齢者」の3つの領域)の分野におけるヒトを対象とした臨床的な研究論文の諸問題(研究目的、研究方法、結果、考察など)について教授・研究する。スクーリングでは、研究を実践する上で必要なテクニックを修得できるよう指導する。					
視 点 (ね ら い)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 修士論文のテーマに関する研究の現状と問題点について理解すること 2. 修士論文のテーマに関する研究成果について理解すること 3. 修士論文の意義と価値及びオリジナリティーについて理解すること 					
リ ポ ー ト 課 題	(各教員共通) 《課題1》『研究課題に関連する先行研究の研究方法及び研究成果の整理とそれらの問題点について』					
テキスト (配 付 資 料)	各自の研究テーマより指示する。					
参 考 文 献	各自の研究テーマより指示する。					
評 価 方 法	レポート課題に合格した後、科目修了試験を行い、総合して評価する。面接授業 (スクーリング) については、授業最終時に筆記試験あるいは口述試験を行い評価する。					
その他 (ア ド バ イ ス 等)	レポート課題の作成にあたっては、スクーリングでの指導が必要になりますので、出席が不可欠です。					

授 業 科 目 名	特別研究 I					
単 位 数 等	単位数	1 単位	授業形態	印刷教材 (4 単位) 面接授業 (4 単位)	授業年次	1・2 年
授 業 担 当 者	和辻 直、伊藤和憲、角谷英治、福田文彦、宮坂卓治、 梅田雅宏、廣 正基、河井正隆					
テ ー マ	各研究指導教員の指示による。					
授 業 の 概 要	「特別研究」では、専攻分野に応じた研究課題を設定し、課題については、選択した授業科目との関連性を踏まえ、研究指導教員との面談により決定する。鍼灸医学の客観化、科学化の発展に寄与できるような研究を指向するため、特別研究を行うにあたっては、通信教育としての特性から、あらかじめ、研究指導予定教員との十分な面談の上、より具体的な研究課題を決定し、研究を進める。					
視 点 (ねらい)	各研究指導教員の指示による。					
リ ポ ー ト 課 題	各研究指導教員の指示による。					
テ キ ス ト	各研究指導教員の指示による。					
参 考 文 献	各研究指導教員の指示による。					
評 価 方 法	研究計画書に基づき研究を進め、スクーリング時に特別研究の直接指導を受ける。その後、中間発表を行い、最終学年時に修士論文を提出し、審査員による口頭試問により評価を行う。					
その他 (アドバイス等)						

授 業 科 目 名	特別研究Ⅱ					
単 位 数 等	単位数	5 単位	授業形態	印刷教材 (4 単位) 面接授業 (4 単位)	授業年次	1・2 年
授 業 担 当 者	和辻 直、伊藤和憲、角谷英治、福田文彦、 梅田雅宏、廣 正基、河井正隆					
テ ー マ	各研究指導教員の指示による。					
授 業 の 概 要	「特別研究」では、専攻分野に応じた研究課題を設定し、課題については、選択した授業科目との関連性を踏まえ、研究指導教員との面談により決定する。鍼灸医学の客観化、科学化の発展に寄与できるような研究を指向するため、特別研究を行うにあたっては、通信教育としての特性から、あらかじめ、研究指導予定教員との十分な面談の上、より具体的な研究課題を決定し、研究を進める。					
視 点 (ねらい)	各研究指導教員の指示による。					
リ ポ ー ト 課 題	各研究指導教員の指示による。					
テ キ ス ト	各研究指導教員の指示による。					
参 考 文 献	各研究指導教員の指示による。					
評 価 方 法	研究計画書に基づき研究を進め、スクーリング時に特別研究の直接指導を受ける。その後、中間発表を行い、最終学年時に修士論文を提出し、審査員による口頭試問により評価を行う。					
その他 (アドバイス等)						

授 業 科 目 名	特別研究Ⅲ					
単 位 数 等	単位数	2単位	授業形態	演習	授業年次	1・2年
授 業 担 当 者	和辻 直、伊藤和憲、角谷英治、福田文彦、 梅田雅宏、廣 正基、河井正隆					
テ ー マ	各研究指導教員の指示による。					
授 業 の 概 要	「特別研究」では、専攻分野に応じた研究課題を設定し、課題については、選択した授業科目との関連性を踏まえ、研究指導教員との面談により決定する。鍼灸医学の客観化、科学化の発展に寄与できるような研究を指向するため、特別研究を行うにあたっては、通信教育としての特性から、あらかじめ、研究指導予定教員との十分な面談の上、より具体的な研究課題を決定し、研究を進める。					
視 点 (ねらい)	各研究指導教員の指示による。					
授 業 計 画						
日程	概 要			備考 (授業時間外学習の指示等)		
1	[授業概要] 研究指導					
2	[授業概要] 研究指導					
3	[授業概要] 研究指導					
4	[授業概要] 研究指導					
5	[授業概要] 研究指導					
6	[授業概要] 研究指導					
7	[授業概要] 研究指導					
8	[授業概要] 研究指導					
9	[授業概要] 研究指導					
10	[授業概要] 研究指導					
11	[授業概要] 研究指導					
12	[授業概要] 研究指導					
13	[授業概要] 研究指導					
14	[授業概要] 研究指導					
15	[授業概要] 中間発表					
16	[授業概要] 研究指導					
17	[授業概要] 研究指導					
18	[授業概要] 研究指導					
19	[授業概要] 研究指導					
20	[授業概要] 研究指導					
21	[授業概要] 研究指導					
22	[授業概要] 研究指導					
23	[授業概要] 研究指導					
24	[授業概要] 研究指導					
25	[授業概要] 研究指導					
26	[授業概要] 研究指導					
27	[授業概要] 研究指導					
28	[授業概要] 研究指導					
29	[授業概要] 研究指導					

30	[授業概要] 中間発表	
リポ ー ト 課 題	各研究指導教員の指示による。	
テ キ ス ト	各研究指導教員の指示による。	
参 考 文 献	各研究指導教員の指示による。	
評 価 方 法	論文とプレゼンテーションにより評価する。	
その他 (アドバイス等)		